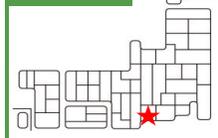


農林水産業経営体

愛知県
犬山市



農福連携の取組により自社栽培したお米を活用し、バウムクーヘンなどの米粉スイーツを製造・販売。地域外企業との連携や、障害者が活躍する店舗の設置など、地域共生と多様性のある雇用創出を実現。



基本情報

設立: R元年 / 農福連携取組開始: R元年
 取得認証等: 認定農業者(R元年)、GGAP(R6)、6次産業化認定事業者(R4)
 主な選定表彰: ノウフク・アワード2022フレッシュ及び2024準グランプリ(地域)、ディスカバー農山漁村の宝(第9回/全国)

概要

主力商品
 (農作物)水稲
 (加工品)米粉バウムクーヘン

特徴的な取組
 スマート農業、特別栽培農産物、6次産業化

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

住所: 愛知県犬山市大字犬山字上り屋6番地11

TEL: 0568-54-4717

Mail: shop@cocotomo-farm.jp

URL: <https://www.cocotomo-farm.jp/>

きっかけ

R元年

「誰ひとり取り残さない居場所をつくりたい」という思いから始まり、農業と福祉を結び付け、地域の農地を活用しながら、障害者の働きがい創出と地域住民との共生ができる仕組みを模索。

人を耕す

- 複数業務(農業・加工・販売)を用意することで福祉事業者への請負報酬増を実現。また、複数業務の中から自身の特性に合った仕事を見つけられるため、一般就労への移行も実現。施設外就労からの正規社員登用も実施。
- 手話接客を行うサイニングストアでは、聴覚障害者が主体的に店舗運営を行い、責任者も輩出。

地域を耕す

- 農業・加工・販売の一貫体制により米の高付加価値化と安定収益を実現。
- れんげ農法による特別栽培米を生産。荒廃農地を活用し、稲作文化と地域景観を保全。
- カフェの経営、祭り(農業祭、ココトモフェスティバル)の開催・参加、見学会(ココトモファームツアー)や農業・収穫体験の開催、JA、行政、大学(日本福祉大学)、地元企業(中電ウイングファーム、名鉄グループなど)との異業種連携等で地域交流を拡大。

未来を耕す

- 農業・福祉・商業・工業を融合した「農福商工連携」を展開。
- 特例子会社中電ウイングと協働し、同社のいちごを使った「贅沢バウム ウイングいちご」を開発。農福連携を軸とした企業間連携という新しいモデルを展開。
- 聴覚障害者による「サイニングストア」など、多様性を体感できる革新的な店舗運営を実現。

成果

請負報酬の支払額

0円(R2)
→782万円(R6)

農作業に関わる障害者等の数

4人(R2)
→89人(R6)

売上高

3,280万円(R2)
→56,106万円(R6)

農地面積

8.2ha(R2)
→11.8ha(R6)

- 米粉スイーツや地域コラボ商品の開発により、農産物のブランド価値と市場競争力を強化。
- 地元行政、大学、企業と連携し、多分野での協働を拡大。農業だけでなく観光・教育・福祉を巻き込む「地域共生型の農福モデル」を形成。
- 「ココトモフェスティバル2025」では約3,000人を集客し、地域全体を巻き込むイベントを実現。障害者と地域住民が共に楽しみ、交流できる場を提供。

提携企業と連携して、高菜の栽培から一次加工、二次加工までを実施。地域農家の農作業受託や農業生産法人への一般就労などを通じて、地域農業に貢献。



基本情報

設立:H16年 / 農福連携取組開始:H20年

きっかけ

H20年

県中部振興局主導の下、高菜の栽培を新たな品目への取組として計画し、提携企業と連携して栽培から一次加工、二次加工までを開始。

取組

人を耕す

- 一般就労した障害者に対しても、仕事が継続できるように必要な相談等の支援を行う「就労定着支援事業」を行うことで、ワンストップでステップアップを支援する体制を整備。
- 地域の基幹品種であるピーマン農家に実習生を派遣し採用され人手不足解消に貢献。
- 加工場で働く利用者らのために、ソックダクト(自然対流式の冷却装置)システムを採用。

地域を耕す

- 県中部振興局主導の下、産地パワーアップ事業を活用し、提携先のふるさと館と東乃匠とともに高菜の栽培や加工を実施。
- 自社ほ場だけでなく、地域の農家から米やだいこん、梅などの栽培に係る農作業を受託。
- 様々な地域のイベントに出店するとともに、地域の公共施設や支援学校等に喫茶店を開設。栽培した米や野菜、漬物等を使用した定食等を提供し地域活性化に貢献。

未来を耕す

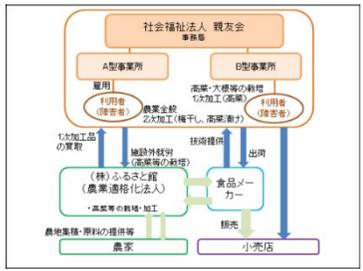
- 最新鋭の設備を完備したHACCP基準の加工場で、梅干し(小梅・南高梅)、高菜漬け20アイテム、浅漬け40アイテムなどを製造。お中元、お歳暮のギフトとしても好評。
- 高崎山自然動物公園にエサとなるさつまいもを提供しているほか、清掃作業を受託。
- 特別支援学校の保護者会や、障害者施設の職員、地域の議員など多くの視察を受け入れ。

概要

主力商品

(農作物)高菜、米、唐辛子、かぼちゃ、じゃがいも
(加工品)漬物

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

成果

平均工賃月額	農作業・加工 に関する障害者の数	売上高	農地面積
32,064円(R2) →38,313円(R6)	A型:19人(R2) →19人(R6) B型:18人(R2) →20人(R6)	9,713万円(R2) →12,175万円(R6) ※農業・加工品等	9ha(R2) →13ha(R6)

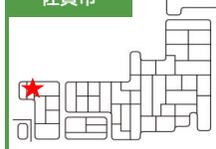
- 地域の農業生産法人への職場実習から就職につながった利用者があり、地域の農業の担い手として活躍。その活躍を見て、地域の農業者の間で障害者への理解が促進。
- 地域の特別支援学校の1階にて喫茶店を開店。特別支援学校の生徒が実習を行い、卒業後の飲食店への就労にも寄与。
- 特別支援学校の生徒の職場体験の受入を行う(令和6年度5名)。

住所:大分県大分市大字辻1381番地の1
TEL:097-595-1711
Mail:hatake.shisetuchou@3-flower.jp
URL:https://3-flower.jp/pages/7/

県のコーディネーターを中心とした農業経営体と障害者就労施設のマッチング支援により、工賃向上や農地の維持、農業経営体の規模拡大に貢献。中間支援者のためのマニュアル作成など、「佐賀モデル」が全国へ波及。

地方自治体

佐賀県
佐賀市



基本情報

設立:R3年 / 農福連携取組開始:R3年

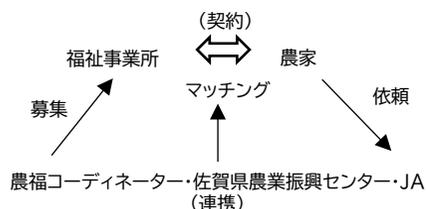
主な選定表彰:ノウフク・アワード2024フレッシュ

概要

主力商品(障害者等が生産に携わっている農産物)
きゅうり、たまねぎ、アスパラガス、ネギ、ピーマン、ホウレンソウ、スイートコーン、トマト、ニラ、バジル、小松菜、いちご、すもも、みかん、レモン、梨、畜産

特徴的な取組
中間支援

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

住所:佐賀県佐賀市城内1丁目1番59号

TEL:0952-25-7118

Mail:nougyoukeiei@pref.saga.lg.jp

URL:https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00396354/index.html

きっかけ

R3年

高齢化による農家の担い手不足、コロナ禍で障害者の就労が不安定となる中、令和3年度に副知事をトップとした「農福連携プロジェクト推進チーム会議」を設置。

人を耕す

- 県農業経営課及び障害福祉課就労支援室に1名ずつコーディネーターを配置。
- 農福連携技術支援者であるコーディネーターが障害者に対して能力や適性に応じた農作業等の選定、見える化や治具の作成等の支援・助言を実施。
- マッチング後も農家と障害者就労施設の声を拾い、サポートするとともに、双方の信頼関係が深まるように支援。

地域を耕す

- マッチング数の増加に伴い中間支援を行う人材が不足しており、令和6年度から農福連携技術支援者育成研修を開催。また、農業振興センターやJA職員を対象とした中間支援の研修会を定期的に開催することで好循環のマッチングを実現。
- 農家と障害者就労施設による体験イベントの開催支援や、地域の自立支援協議会就労支援部会での説明会、特別支援学校での説明会等により農福連携の認知拡大に貢献。

未来を耕す

- 「中間支援者のための農福連携マッチング推進マニュアル」を、県HPで公開。県外からも研修会の依頼があるなど、「佐賀モデル」として全国へ波及。
- 全国で初めてノウフクJAS製品である非常食「緊急救命72hおかゆ」を防災備蓄品として障害者優先調達推進法に基づいて購入し、就労支援B型事業所の工賃向上に寄与。

取組

成果

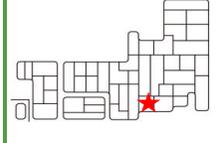
売上高	参加障害者就労施設	参加農業経営体	マッチング件数
479万円(R3) →891万円(R6) ※マッチングの実績の売上を合計して算出	13団体(R3) →44団体(R6)	14団体(R3) →56団体(R6)	25件(R3) →86件(R6)

- マッチング支援を通じた就労機会の増加により、福祉事業所での工賃向上に寄与。
- マッチング支援により、農地の維持、規模拡大に貢献。(例えば、ピーマンのヘタ切り・調整をJA選果場で複数の障害者就労施設に依頼したことにより、農家は収穫作業に集中できる。)
- 障害者就労施設に調整作業を依頼したことで農家が栽培管理に手が行き届き、品質が揃ったことで障害者就労施設も調整しやすく出来高アップの好循環や、利用者が作業しやすい作物を作るために品質の良いものを作りたいという農家の思いから品質の向上に繋がる多数の事例が誕生。
- 農家と福祉事業所が連携した体験農園の開催支援により、交流人口の増加に寄与。県内で3つの地域協議会が発足し、農福連携の推進に貢献。

障害者、生活困窮者、ひきこもり、刑務所出所者等の多様な者で、農福連携×都市農業による米の付加価値向上を行う。また、ユニバーサル農園の開設により、多様な人材が参加・交流できる場を創出。

福祉事業所

愛知県
名古屋市



基本情報

設立:H24年 / 農福連携取組開始:H28年
 取得認証等:認定農業者(R7)、農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R4)
 主な選定表彰:R4年度名古屋市食育イノベーション大賞優秀賞

概要
主力商品
 (農作物)米、白菜、サツマイモ
 (加工品)一味唐辛子
特徴的な取組
 環境保全型農業、自然栽培、特別栽培農産物、スマート農業、ユニバーサル農園

体制図

株式会社ウィンパートナーズ

- ぽかぽかケアサポート (訪問・居宅)
- ぽかぽかワークス (就労B)
 - ・ぽかぽかファーム
 - ・ぽかぽか自然農園元中野町 (市民農園)
 - ・子ども未来基地 (ユニバーサル農園)

住所:愛知県名古屋市中川区荒子5-165
 TEL:052-398-6320
 Mail:kudo@win-p.com
 URL:https://www.win-p.com/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きっかけ

H28年

内職や施設外就労メインの事業所から、県の農福連携セミナー参加をきっかけに農業に参入。循環型農業と農福連携に取り組むほか、子ども参加型体験などを展開。

人を耕す

- 障害者だけでなく、生活困窮者やひきこもり20名で取り組む。刑務所出所者も5名受け入れ。
- 農作業マニュアルや工賃規定等を整備することで作業効率を高め、工賃とモチベーションが向上する仕組みを構築。また、スパイダーモアや刈払い機などの作業を障害者が行える環境を整備し、作業効率をさらに向上させた。
- 農作業を通じて、地元の信頼を獲得し、農業土木委員等で水回りを担う者を輩出。

取組

地域を耕す

- 生産が減少している愛知県の伝統野菜「野崎白菜」の生産・販売を行い、普及に寄与。
- 認定農業者、JAの正組合員、地域計画の担い手として、荒廃農地14,588㎡を開墾・再生し、農地面積を9haまで拡大。
- 地域のお祭りや防災訓練イベントへの参加、自然栽培の農業体験イベントの実施などを通じ、地域住民や学生ボランティア、行政、企業・団体など地域の交流・連携の場を創出。

未来を耕す

- 都市部での循環型農業の拡大を目指し、アイガモロボを活用した米作りを実施。子どもがスマート農業技術に触れることで、農業の価値観の変革も目論む。
- JAなごや、中川区社会福祉協議会、地元企業・飲食店等と連携し、稲作の農業体験「みんなで未来をつくる米！プロジェクト」を実施し、都市農業の保全、地域活性化に寄与。

平均工賃月額	交流人口	売上高	農地面積
11,837円(R2) → 21,367円(R6)	165人(R3) → 3,513人(R6)	190万円(R2) → 1,625万円(R6)	2ha(R2) → 9ha(R6)

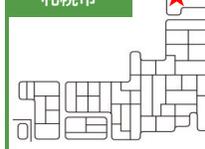
成果

- 1名が一般就労し、生活困窮者2名が事業所の職員として活躍。その姿を見て、他の障害者も一般就労を目指して訓練するなどの好循環を生む。
- ユニバーサル農園を開設し、従来の農業にとらわれず、間引き菜をその場で食べる、除草しながらおいしい雑草を探すなど自由で遊び心のある農体験を提供。多世代かつ障害者、ひきこもり状態の者、生活困窮者など多様な人が参加し、交流できる場を創出。
- 農福連携×都市農業というブランディングで成功し、米の付加価値向上を果たす。現在は、結婚式の両親贈呈品(体重米)としても全国で販売。

『戦力になる農福連携』をテーマに、24時間365日作業受託可能な体制で農作業チームを結成し、平均工賃9.5万円以上を実現。冬場には荒廃農地を利用して菌床椎茸栽培を行い、年間を通じた作業を創出。

中間支援組織

北海道札幌市



きっかけ

H31年

前身法人時代に人手不足の農家との出会いを契機に、有料の民間中間支援組織として農福連携のマッチング支援を行う。その経験を活かして自社チームを設立し、取組を開始。

人を耕す

- 24時間365日作業可能な体制を構築し、年間約30の契約農家により安定した作業受託を実現。就労Bの利用者と利用者からステップアップした職員で結成した「チームグリーン」は少数精鋭で運営され、月額平均工賃9.5万円以上を達成。
- 就労移行を積極的に推進し、他社移行や自社でのパート・正社員雇用を実現。

地域を耕す

- 町所有の空き家の交流センターを借用し、障害者福祉のインフラ強化のための相談窓口としてNPO法人いんくるらぼを設立。街全体で農福連携への理解を促進。
- 冬の仕事創出のため、荒廃農地を借用してR4年より菌床椎茸栽培を開始し、R5にはノウフクJASを取得。冬季の受け入れ先がない養護学校生徒の実習受け入れに貢献。
- 農作業だけでなく、福祉除雪や住宅清掃などの地域の困りごとへも対応。

未来を耕す

- 農福連携技術支援者に資格手当を支給し、自社だけでなく農福連携全体が盛り上がるようコーディネーター育成に尽力。
- R3より荒廃農地をユニバーサル農園として整備し、収穫体験や直売所、視察拠点として活用。地元社協や農家と連携し、高工賃実現や若年農業者育成などを推進。

取組

成果

平均工賃月額

50,000円(R4)
→100,000円(R6)

農作業チーム

3人(R4)
→8人(R6)

菌床椎茸出荷額

100万円(R5)
→200万円(R6)

農地面積

0a(R4)
→2a(R6)

- 全国的にも珍しい完全民間の有料中間支援組織としての経験をもとに、農福連携を活用した町おこしや高工賃を実現。ノウフクJAS取得などが注目され、NHKや北海道ウェブ媒体『くらしごと』などで取材対応も実施。
- 農家目線と福祉目線の両立を重視し、高工賃の実現やコーディネートを推進。将来的には若年農業者に畑の管理や生産・出荷までを任せる計画。
- 特別支援学校からの卒業生が多く在籍しておりR6は5名、R7は2名を新たに採用。移行実績やテレビ出演などから就労希望者が増加。



基本情報

設立:R3年 / 農福連携取組開始:H31年

取得認証等:ノウフクJAS(R6年)

概要

主力商品
(農作物)菌床椎茸

特徴的な取組
林福連携、ユニバーサル農園、中間支援

体制図

統括管理:合同会社カレイドスコープ(農福連携コーディネーター)
実施主体:特定非営利活動法人楽園プロジェクト(就労B、グループホーム、相談室)
連携自治体:北海道勇払郡安平町
農福連携実施地域:新篠津村、当別町、安平町、千歳市、長沼町、栗山町 他
主な連携先:【農業者】ダイナックス、またたびファーム、大塚ファーム 他、【企業】パターンプランニング株式会社(北海道TEA)、百姓屋(加工品製造) 他

住所:北海道札幌市白石区栄通11丁目1-33

TEL:011-556-8676

Mail:Kaleidoscope.jp@outlook.jp

URL:https://rakuenproject.com/

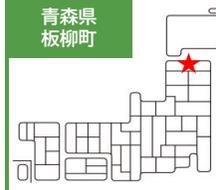
受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

耕作放棄地を活用し、AIによる自動灌水・施肥システムで作業の効率化を図りながら、高品質な果物や野菜を生産。施設外就労による複数の地域農家との農福連携やノウフクJASの活用を通じて、高賃金を実現。

福祉事業所

青森県
板柳町



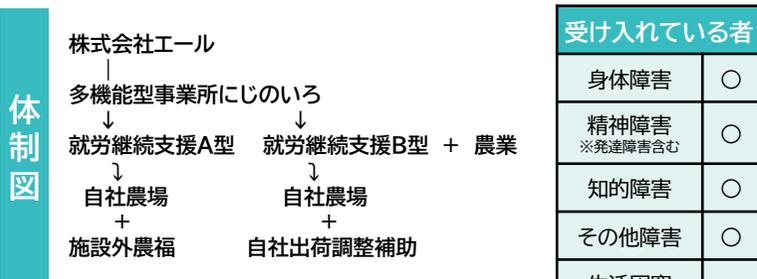
基本情報

設立:H27年 / 農福連携取組開始:H29年
 取得認証等:認定農業者(R6年)、ノウフクJAS(R4年)
 農山漁村振興交付金(農福連携型)(R1~R2年)
 主な選定表彰:ディスカバー農山漁村の宝(第10回/東北)

概要

主力商品
 (農作物)ピーマン、シャインマスカット、メロン 等

特徴的な取組
 スマート農業



住所: 青森県北津軽郡板柳町大字横沢字東宮元12-12
 TEL: 0172-55-6682
 Mail: info@nijino-iro.jp
 URL: https://nijino-iro.jp/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きっかけ

H29年 JAからのピーマン栽培支援依頼を機に農業へ参入。難しい水と肥料の供給をAI自動灌水・施肥システムの導入で対応し、自社栽培を開始。農家との連携も拡大中。

人を耕す

- 作業の細分化やスタッフの農作業理解度の向上により、作業環境を改善し、障害者の体力と自信が向上。複数農家との連携が実現し、平均賃金向上と利用者の技術習得につなげる。
- 施設外就労先の農家に些細なことでも褒めるようお願いし、利用者の自信向上と農家との信頼関係構築を実現。

取組

地域を耕す

- JAから営農組合のニンニクの芽出し作業を依頼され、高評価を獲得。新たなリング栽培の作業依頼につなげる。弘前市からも農家を紹介され、契約を結ぶなど地域との連携の場を拡大。
- 青果市場と連携し、耕作放棄地を活用した里芋の実証栽培に挑戦。
- 地域のノウフクマルシェに参加し、ノウフクJAS認証のピーマンやシャインマスカットを販売。地域との交流を深めた。

未来を耕す

- 耕作放棄地を活用し、全自動灌水・施肥システム「ゼロアグリ」を導入したシャインマスカット、メロン栽培を開始。作業の効率化と品質向上による収益増を実現。また、AI管理によりメロンのネットが均一に仕上がるとの評価を得て、県内農家や大手企業からも注目を集める。
- ノウフクJAS認証の青森県産ピーマンとして秋田県スーパーに出荷。信頼性と話題性で売り上げも良く、単価アップにより収益向上が実現。

平均賃金月額	農作業就労数	売上高	農地面積
67,000円(R2) →85,000円(R6)	2人(R2) →9人(R6)	90万円(R2) →980万円(R6)	0.3a(R2) →2.8a(R6)

成果

- スタッフが農家へ実習に赴き、障害特性に応じたワーキングメモリーを意識しながら、作業の細分化とシミュレーションを実施。利用者の自信向上と、農家が納得できる作業提供を実現。
- 作業を細分化し、できることから着実に取り組むことで、障害者は自身が向上し、障害者の受入に抵抗のあった農家や地域の理解も進んだ。
- 特別支援学校生徒の見学体験会を実施し、ピーマンの収穫や出荷調整等体験を通して交流。利用者にとっても、教えるという新たな経験を積んだことで、成長の機会となった。

特別支援学校と連携して地元狭山茶の栽培管理等や、地鶏の飼育から商品開発・販売までの産業化に取り組むことで双方の生徒の進路選択の幅を広げ、将来のキャリアを考えるきっかけ作りに貢献。

高等学校

埼玉県川越市



基本情報

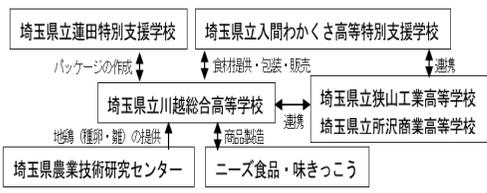
設立:T9年 / 農福連携取組開始:R5年

概要

主力商品
 (農作物)地鶏(タマシャモ)、米、にんじん
 (加工品)タマシャモカレー

特徴的な取組
 スマート農業、6次産業化

体制図



住所:埼玉県川越市小仙波町5丁目14番地
 TEL:049-222-4148
 Mail:r224148@pref.saitama.lg.jp
 URL:https://kawagoesogo-h.spec.ed.jp/

きっかけ

R5年

地鶏商品の新たなパッケージデザインに障害者アートの活用が決まり、特別支援学校に協力を依頼したことがきっかけで、それぞれの得意分野を活かした協力体制・連携を構築。

取組

人を耕す

- 様々な作業工程の中で、双方の生徒の特性や得意分野等を知ることができた。
- 特別支援学校の生徒が描いた絵をパッケージデザインに使用することで、特別支援学校の生徒の活躍の機会となり、喜びと自信に繋がった。
- 双方の生徒が自ら育てた農畜産物が商品化され農業に対する意欲向上に貢献。

地域を耕す

- 地域特産のお茶を鶏の飼料に加えることで、鶏肉の風味や品質が向上したほか、紅茶の茶殻や廃棄される茶葉を再利用することで、食品ロスの削減にも繋がり、SDGsの達成に貢献。
- 高校生、特別支援学校の生徒、お茶生産者が連携し、合同での茶摘み体験や地域イベントでの生産物販売することで、地域のつながりが生まれ、障害者への理解を促進。
- 入間わかさ高等特別支援学校が運営するカフェで、川越総合高等学校の製造商品を提供。

未来を耕す

- 異校種交流やイベント参加を通し多様な人と関わることで、双方の生徒の進路選択に幅が広がり、将来のキャリアを考えるきっかけとなっている。
- 学校における農福連携の促進を目指し、特別支援学校との連携事例を外部に紹介。
- 地元狭山茶の栽培管理等を通して、特別支援学校・農業高校・工業高校・商業高校が連携している取組は珍しく、新聞やテレビなどの報道でも取り上げられている。

成果

農産物売上高	交流人口	—	—
44.9万円(R5) →87.8万円(R6)	10人(R5) →30人(R6)		

- 農業を通じた交流の中で、生徒の障害者に対する理解が深まり、お互い得意分野を活かし、協力し合う環境を整備。
- 本校生徒にも人間関係の構築が苦手な生徒も多く、はじめは戸惑っていたが、農業を通じた交流の中で、障害を持つ生徒と積極的に交流していく姿勢がみられた。
- パッケージの個包装作業を特別支援学校の生徒に担ってもらうことで、完成品の安定供給が可能となり、増産され販売数が向上。

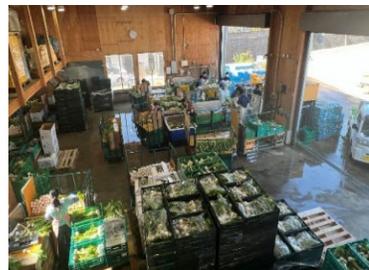
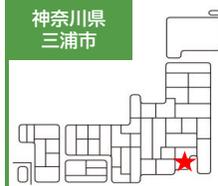
受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

特例子会社に農作業を委託し、作業の細分化やスマート農業の導入により収益性と生産性が向上。より多様な人材が活躍できる環境が整備され、現在は外国人労働者と共に障害者が農作業で活躍。

農林水産業経営体

神奈川県
三浦市



基本情報

設立:R2年 / 農福連携取組開始:H30年
 取得認証等:認定農業者(R4年)、みどり認定(R6年)
 主な選定表彰:第53回日本農業賞(個人経営)神奈川県代表

きっかけ

R2年

高齢化に伴う経営方針転換を考えた時期に特例子会社との縁があり、障害者社員の一途な働き方に感動し、企業と共同で人材育成を行い始めたことがきっかけ。

人を耕す

- 作業工程を巧緻性と最多注意配分数を両輪とした難易度評価により階層的に分けており、現在の工程ができるようになったら次の難易度の工程にステップアップするルールを採用。
- 出荷調整所をユニバーサルデザイン化し、合理的配慮された休憩所やトイレも増築。交代制で休憩がとれるルールを徹底。

地域を耕す

- 特例子会社の障害者社員の成長とともに事業も拡大し、収益性並びに生産性が向上。
- 地域の農業技術や野菜を継承し、農福連携で三浦カブを始めとした三浦野菜を栽培することにより地域農林水産業の維持・発展に貢献。
- 若手地域農家の経営的な相談に乗り農福連携に取り組む各援農先の持続可能性向上に貢献。

取組

未来を耕す

- 出荷調整所に数量カウントセンサーやオートメーションシステム等のスマート農業を導入。
- 荷調整作業で、日々大量に出してしまうカブの残渣を活かした循環農法を企業と共同研究開発。
- AI搭載のプロジェクトマッピングを導入し、カブの選別作業の難易度を下げることに成功。
- 休憩室に必要な農具を揃えておくことで、特例子会社の社員がほ場に直行直帰できる体制を整備し、障害者の自立を支援。

概要

主力商品
(農作物)三浦かぶ、スイカ、かぼちゃ等

特徴的な取組
スマート農業、ユニバーサル農園

体制図

パーソルダイバース株式会社
よこすか・みうら岬工房
→株式会社PEEKABOO
(企業参入型ノウフク援農モデル)

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

成果

作業請負年間支払額	障害者数	農業売上高	農地面積
320万円(R2) →650万円(R6)	9人(R2) →17人(R6)	5,700万円(R2) →7,300万円(R6)	1.8ha(R2) →4.0ha(R6)

- 3年かけて弊社の下葉処理作業を習得し、6年目の現在は農家と変わらぬ精度と効率で作業ができるようになった。
- 企業の障害者社員が母校で講演を行い、農業の魅力を特別支援学校の後輩に広めている。
- 生産性の向上に伴い、賃金も向上。
- 障害者も安全に安心して働ける環境が整い、より多様な人材が活躍できる場になったことで、障害者と外国人労働者が同じ現場で働くことができるようになった。

住所:神奈川県三浦市南下浦町菊名25-3

TEL:046-888-0875

Mail:info@miurakabu.com

URL:https://peekaboo-miura.com/

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可
 特別支援学校における校内実習や作業学習への支援(体験の場の提供、農業に関する技術的な助言等):可

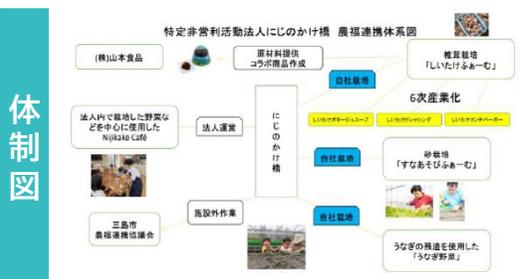
生産から販売まで障害者等が一貫して関わり、作業工程の効率化や6次産業化により収益性を確保し、工賃向上を実現。多様な人々が関わる仕組みづくりと地域内外の連携に取り組み、地域農業の維持・発展にも貢献。



基本情報

設立:H23年 / 農福連携取組開始:H25年

概要
主力商品
 (農作物)さつまいも、にんじん、しいたけ 等
 (加工品)椎茸ドレッシング、松茸ポタージュ 等
特徴的な取組
 林福連携、6次産業化、スマート農業



住所:静岡県三島市北田町7番地の29
 TEL:055-939-7526
 Mail:ryotasuzuki.nijikake@outlook.jp
 URL:https://nijinokakehashi.org/

きっかけ

H25年

農家から「人手不足で農業を手伝ってほしい」との相談があり、施設外就労として手伝いをしたことがきっかけ。

人を耕す

地域を耕す

- 作業工程の効率化や販売力の高い野菜等で収益性を確保し、月額平均工賃3万円を達成。
- 地元スーパー等での対面販売など、利用者が生産から販売まで一貫して関わることで、責任感と意欲を向上。
- 利用者の能力に応じて役割設定し、リーダーとしてのステップアップも推進。
- 言葉の壁や障害特性を乗り越えるため、視覚的な作業手順書を導入。

取組

未来を耕す

- 荒廃農地を活用し、近隣農家からの協力も得ながら、季節野菜や地元の伝統野菜を栽培して地域農業の維持・発展に貢献。
- JAや商工会、地元企業や行政など異業種と連携し、地域全体での農福連携推進体制を構築。
- 自社栽培の野菜などを使った Nijikake Café(にじかけカフェ)を運営し、利用者が接客や販売を担当することで地域との直接的な交流を推進。

未来を耕す

- 「農福連携を地域と未来の希望につなげる」ことを掲げ、持続可能な取組を展開。
- 収穫野菜を使用した無添加加工品の開発や、直売所・イベントでの販売活動など、6次産業化、も推進。
- 小中学校生徒を対象とした農業体験や職場見学受け入れなど、若い世代に福祉や多様性の理解拡大を促す活動をしており、未来の担い手づくりにも貢献。

平均工賃月額	農業に携わる障害者数	農作物等売上高	農地面積
22,350円(R2) →30,052円(R6)	30人(R2) →75人(R6)	310万円(R2) →404万円(R6)	5.45a(R2) →7.45a(R6)

成果

- 障害者だけでなく、高齢者、外国人、ひきこもり経験のある若者、子育て中の主婦など多様な人々が関わり共に働く場を創出し、誰もが自分らしく働ける職場づくりを推進。
- 農作業で培った勤労習慣や体力、コミュニケーション能力を評価され、3名の利用者が食品加工会社や地元スーパーなどへ就労。

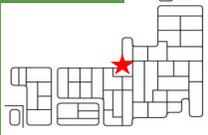
受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

AIやスマート農業を活用することで障害者の作業領域を大幅に拡大。水稻栽培や観光いちご農園等に取り組み、楽しく多様な農福連携を実現。

福祉事業所

福井県
あわら市



きっかけ

H25年

障害者に農業を通じて働く場を提供し、共に地域農業の担い手となることを目的に設立。

人を耕す

- 農作物の播種・定植、除草、収穫、乾燥調製、出荷、加工の作業を分解することで、知的障害者、精神障害者の17名が自社事業及び施設外就労で、100haを超えるほ場で農作業に従事。
- 講習を修了した利用者がロボット田植機、アシスト付コンバインのオペレーターとして活躍。
- 一人ひとりの特性、経験、技術、相性等を考慮し、作業内容、チーム編成を行うことで、利用者間の信頼関係を構築。

地域を耕す

- 農山漁村振興交付金を活用し、小口精米ユニットを導入。利用者が精米作業に従事し、首都圏、関西圏の障害者就労施設、外食事業者へ精米を販売。
- 県内外からの視察や田植・稲刈り体験、観光いちご農園等で交流人口が増加。
- 獣害対策等として、ほ場の畦畔、土手、農道等の除草作業を年4回実施し、中山間地の集落維持に貢献。

未来を耕す

- ドローン、ロボット田植機、アシスト付PFコンバイン、トラクター、米乾燥施設の温度管理にスマート農業を活用。
- 特別栽培農産物(米・メロン)の栽培、観光いちご園の暖房燃料は間伐材でのペレット材を使用し、環境にやさしい農業に取組み、GH評価で900点以上と高い評価。

取組

基本情報

設立:H25年 / 農福連携取組開始:H25年

主力商品

(農作物)米・大豆、甘藷、柿
(加工品)いちごジャム、かきもち

特徴的な取組

スマート農業、環境保全型農業、特別栽培農産物

概要

体制図

就労継続支援A型事業所
株式会社農楽里
役員 8名(非障働6名を含む)
サービス管理者 1名
生活支援員 1名
職業指導員 6名
利用者 定員10名
知的12名、精神5名
○生産部門(自社事業):柿・精米
○施設外就労部門:農作業受委託
○託託部門:公園管理・歩道保全
○利用者による自治会

農地所有適格法人
有限会社あわら農楽ファーム
役員 8名
○生産部門:水稻・甘藷・大豆・そば・メロン
○農産加工部門:あんぼ柿・あわせ柿・かきもちいちごジャム
○販売部門
○観光農園部門:いちご
○農作物検査部門
○農作業受託部門:田植え・稲刈り・乾燥調製



受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

成果

平均賃金月額	売上高	交流人口	農地面積
71,306円(R2) →87,038円(R6)	642万円(R2) →2,145万円(R6)	1,409人(R2) →10,002人(R6)	74ha(R2) →105ha(R6)

- AIやスマート農業による農福連携で、安全性が高く、操作が簡便で、精度の高い農作業が可能となり、農作物の生産性や品質の向上、収益UPに寄与。
- 完全週休二日制、夏季休暇、年末年始休暇制度等で勤務条件を改善。
- 県平均を大きく上回る12万円以上の月額賃金を実現した者も増加。
- 利用者は、チーム長、リーダー、一般就労へとステップアップし、5名が一般就労。
- あわら市ふるさと納税返礼品に農福連携商品として登録。利用者がデザインした段ボール箱で返礼品を送付する等、農福連携の普及啓発に尽力。

住所: 福井県あわら市山室72字長割山101番
TEL: 0776-63-6317
Mail: info@fukui-norari.jp
URL: http://www.fukui-norari.jp/

荒廃農地を活用し、京野菜や宇治抹茶の生産・加工・コミュニティカフェ運営を展開。ろう者を中心とした利用者の高工賃を実現するとともに、地域活性化に貢献。

福祉事業所

大阪府枚方市



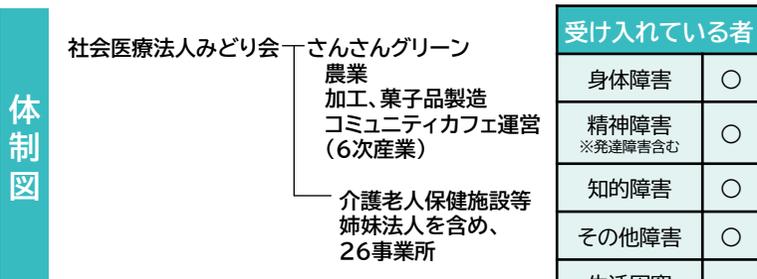
基本情報

設立:R6年 / 農福連携取組開始:H23年
 取得認証等:認定農業者(H27年)、ノウフクJAS(R7年)

概要

主力商品
 (農作物)宇治抹茶、京都えびいも、万願寺とうがらし、京都田辺茄子 米、京都レモン、ゆず

特徴的な取組
 環境保全型農業、自然栽培、ユニバーサル農園 等



住所:大阪府枚方市藤阪中町3-20
 TEL:072-807-3356
 Mail:33green.cc@gmail.com
 URL:https://syoujukai.org/welfare/sansangreen.html

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 <small>※発達障害含む</small>	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きっかけ

H23年

ろう者が手話で気軽に交流できる居場所として、廃園となった茶園で碾茶等の栽培をする前身の事業所を開所。2024年に元職員、利用者らで大阪へ拠点を移し、本事業所を開所。

人を耕す

- 平均工賃は全国平均の約2倍。
- 盲ろう者など重複障害者なども在籍。高齢者には座ってできる作業、半身まひの者には片手でできる作業など、個々の特性に合わせた作業割振と支援を行い、全員が主体的に活躍できる環境を整備。
- ろう者のほか精神、知的、重複障害、認知症の高齢者など様々な人が助け合う風土を形成。

取組

地域を耕す

- 山城北農業改良普及センターやJA京都やましろと連携し、京都えびいも、花菜、京都田辺茄子などの「京のブランド野菜」を生産。京都えびいもの苗を生産し、JAをとおして、新規就農者などの手に渡し、地域農家を支えている。
- 手摘み茶農家が減少する中で、毎年手摘み収穫を行い、宇治茶文化を維持・継承。地元茶農家への農業支援も実施。

未来を耕す

- スパイスメーカーと連携した「全国 鷹の爪軸取り選手権大会」の企画・開催や、市の自立支援協議会就労部会への参加などで、農福連携の情報発信を行う。
- 施設利用者である日本で唯一の盲ろうトライアスリート中田鈴子選手を支援し、国内外でスポーツを通じた農福連携の啓発活動を展開。

平均工賃月額	施設利用者数	売上高	農地面積
4.6万円(R6)	21人(R6)	936万円(R6)	1.3ha(R6) ※全て耕作放棄地を活用

成果

- 市外の手話通訳者研修会などに出講し、農福連携とは無縁の福祉関係者への啓蒙活動に取り組みすることで、農福連携の認知拡大に寄与。
- 併設カフェで毎日ワンコインランチを提供し、地域の高齢者などの居場所を作る。5月の茶摘み体験をはじめえびいも、茄子の収穫体験、土曜日、呈茶など、通年で市民との交流イベントを実施。
- 低農薬・ノンワックスのレモンや無農薬の柚子を栽培し、ノウフクJAS認証を取得。皮まで安心して食べられる果実を使って大学やレストランと連携。レモンネードの販売や柚子のホットソースの商品化など話題性のある取組を展開。
- 地元の特別支援学校や大学など、教育機関とも連携。



事業所開所時に養豚場の一部業務を受託し、養豚業を開始。その後、廃業予定であった別の養豚業者から事業継承を受け、現在は母豚230頭、育成頭数2,200頭の一貫生産を実施し、地域の畜産業の維持に貢献。

福祉事業所

宮城県
大崎市

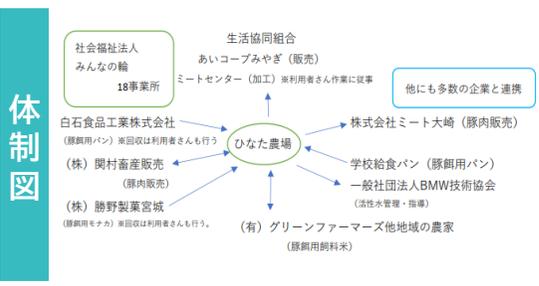


基本情報

設立:H14年 / 農福連携取組開始:H26年
 ※ひなた農場での農福連携開始はR4
 主な選定表彰:仙台市中央卸売市場食肉市場開設周年記念
 枝肉共進会(48、49、50周年)優秀賞

概要

主力商品
(農作物)豚肉



住所:宮城県大崎市田尻大貫北長根91
 TEL:0229-87-8620
 Mail:Wahawa-tajiri@minnanowa.org
 URL:https://www.minnanowa.org/

きっかけ

H26年

事業所開所とともに生活協同組合あいコープみやぎが運営する養豚場の一部業務委託を受け養豚業を開始し、平成30年に全面委託。

人を耕す

- 利用者だけで作業に取り組むことも出来てきており、作業スピードも向上。
- 一つ一つの作業の工程を細分化し、障害特性に合わせた作業内容を提供。

地域を耕す

- 令和4年に廃業予定であった養豚事業者から事業継承を受け、養豚業を引き継いだことで、地域の畜産業の維持に貢献。
- 取り組みを地域にも知ってもらうため、年1回遠田地区の事業所が集まりお祭りを開催。
- 地域の農家や畜産業者と交流し、情報交換などを含めた連携を図り、地域活性化にも寄与。

未来を耕す

- アニマルウェルフェアへの取組も開始。
- 同法人内や食品会社、学校給食から廃棄で出た食パン、地域の農業者からの飼料米等を活用し、飼料を製造。地元の小学校への豚肉の供給スタート(10月~)

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

社会福祉法人みんなの輪 あいあいファームわ・は・わ田尻 ひなた農場(宮城県大崎市) 2025フレッシュ賞

事業所開所時に養豚場の一部業務を受託し、養豚業を開始。その後、廃業予定であった別の養豚業者から事業継承を受け、現在は母豚230頭、育成頭数2,200頭の一貫生産を実施し、地域の畜産業の維持に貢献。

基本情報
 設立:H14年 / 農福連携取組開始:H26年
 ※ひなた農場での農福連携開始はR4
 主な選定表彰:仙台市中央卸売市場食肉市場開設周年記念
 枝肉共進会(48、49、50周年)優秀賞

主力商品
(農作物)豚肉

受け入れている者

身体障害 ○
 精神障害 ※発達障害含む ○
 知的障害 ○
 その他障害
 生活困窮 ○
 ひきこもり
 高齢者 ○
 その他

売上高
 2億2,016万円(R5)
 →2億5,736万円(R6)

利用者数が年々増加している。気づき指摘するまでに成長。

- 利用者が農機具まで扱えるようになり作業の幅も拡大。

被害者数	—
売上高	2億2,016万円(R5) →2億5,736万円(R6)
その他	—

特別支援学校等の現場実習受入れ:可 / 視察受入れ:要相談 / 報道機関受入れ:要相談

特別支援学校における校内実習や作業学習への支援(体験の場の提供、農業に関する技術的な助言等):要相談

施設外就労等で障害者を受け入れ、AIを活用しながら工賃の向上を实践。ICT業界と農業界を繋ぐ農工福連携の実現を目指し、取組を実施。



基本情報

設立:H23年 / 農福連携取組開始:R4年
 取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携型)(R5~R6年) 認定農業者(R3年)
 主な選定表彰:令和7年ディスカバー農山漁村の宝 東北局奨励賞 令和5、6年秋田県種苗交換会菌床椎茸3等 令和2年JA秋田ふるさと枝豆優良賞

概要
主力商品
 (農作物)米・菌床しいたけ・枝豆・玉ねぎ
 (加工品)椎茸のうま煮、しいたけ入り焼きそば、乾燥しいたけ、いぶりがっこ、干芋
特徴的な取組
 スマート農業、輸出、6次産業化、ユニバーサル農園 等

体制図
 「就労継続支援B型イオ・グランデ条里」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「NPO法人太陽の園」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「就労継続支援B型フレッシュワーク」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「就労継続支援A型みらいワーク」で野菜キャラクターデザイン、販促グッズ制作株式会社みずほライスで障がい者を正規雇用

住所:秋田県横手市睦成字久保目110
 TEL:090-6567-5284
 Mail:Kumagai-m.mzh@ace.ocn.ne.jp
 URL:https://mizuho-akita.com/

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 <small>※発達障害含む</small>	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

きっかけ

R4年

農福連携の工賃向上を目指し、前職のICT業界での経験や技術を活用して、成果を上げられる障害者雇用を実施。

人を耕す

- 施設外就労障害者に指示を行うリーダー職として、障害者正社員を採用。
- 誰でも同じ成果を上げられる装置や仕組みを導入することを考え、AIを活用した椎茸の選別機、菌床の濁さを顔文字で表示する機械の共同開発や、白米の自動計量パック機械等を導入。
- 人が集まる農福連携マルシェ用のログハウスなど、心地よい距離感で社内・社外ともに交流できる職場環境を整備。

取組

地域を耕す

- 農福連携は小さな圃場で多品目を栽培。荒廃農地の有効活用で、いぶりがっこ用だいこん、雪ノ下にんじん、空心菜、など特色ある農産物を栽培。
- 横手北小学校や養護施設の子供たちと田植え体験、稲刈り体験を毎年行い、地域の子供たちや高齢農業者との農業交流を実施。

未来を耕す

- 損益改善を図るため、AIやセンサーを活用したスマート農業を实践。
- 障害者に合わせた仕事ができるシステムや仕組みを創り、成果を上げ、工賃向上を目指した農福連携による加工センターを運営。
- R7年産地立地型PJに採択され、椎茸規格外品を使った6次産業化の取組を実施。

平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
13,000円(R4) →15,000円(R6)	10人(R4) →15人(R6)	1億200万円(R4) →1億6,300万円(R6)	60ha(R4) →75ha(R6)

成果

- 毎朝朝礼を実施。会社理念である「生き辛さを抱えた方々を支えること」を伝え、障害者の方へ寄り添い、思いやる心を育成。
- 農福連携の取組に共感した首都圏の5つ星ホテルからお米購入の申し出があり、販路が拡大。
- R7に就労継続支援B型事業所で時給1,000円を開始。
- 就労継続支援A型事業所から農作業体験の受け入れを経て、正社員として雇用。
- R5特用林産振興支援事業に採択され「AI椎茸選別機」を開発。これにより障害者も訓練不要で選別ができる環境が実現。

JX金属株式会社の特例子会社。多様な方々が生き生きと働ける社会の実現を目指し、自前型・援農型両方の農福連携を実施。

特例子会社



基本情報

設立:R4年 / 農福連携取組開始:R5年
主な選定表彰:令和7年度障害者雇用支援月間における絵画・写真コンテスト独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞

概要
主力商品 (農作物)野菜
特徴的な取組 環境保全型農業

体制図
JX金属株式会社
↓
JX金属コーポレートサービス株式会社 (JX金属株式会社の特例子会社)
※内原ファームはJX金属コーポレートサービス株式会社の組織
※茨城県水戸市内原にある農業専門学校日本農業実践学園内に事務所・圃場・農業機械を借用し事業を実施

住所:茨城県水戸市内原町1463-48
TEL:070-1563-1136
Mail:uchiharafarm@jx-nmm.com
URL:https://www.jx-corp.com/

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 <small>※発達障害含む</small>	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きっかけ

R5年

JX金属の特例子会社として、農福連携によって、障害者がやりがいをもって働ける環境を構築できると判断し、事業を開始。

取組

人を耕す

- 人事制度では、能力・成果を昇給や賞与に反映する仕組みを構築。やりがい作りのため、全員リーダー制や日々の作業に希望制を導入。
- 雇用障害者のうち1名は、正社員にステップアップし、職場のリーダーとして活躍。
- 生産した農作物を、各地に工場を持つJX金属の従業員への販売や工場の食堂で活用するほか、農業体験・社員研修の場として活用し、グループ全体の障害者理解に貢献。

地域を耕す

- JX金属、Jリーグクラブ水戸ホーリーホック、日本農業実践学園の3団体で連携し「農業×福祉×スポーツ」の地域活性化に向けた農福連携+αの仕組みを構築。
- 日本農業実践学園の指導を受け、伝統的な技術と有機農法手法を継承するほか、同学園及び水戸ホーリーホックの農事業の繁忙期に援農を実施。
- 従業員家族イベントでの農作業体験、近隣保育園児の農業体験の受入れ・食育等を実施。

未来を耕す

- 水戸ホーリーホック障害者サッカーチーム所属員の中で就労希望があれば内原ファームで採用するといった相互の人的交流の仕組みを構築。
- 内原ファームの障害者が販売会等に参加し、生産した農作物を自ら販売することで社会との繋がりを感じるきっかけとなり、地域の障害者理解にも貢献。

成果

平均賃金月額	障害者雇用数	売上高	農地面積
12万円(R5) →13.1万円(R6) ※+年2回の賞与	4人(R5) →8人(R6)	104万円(R5) →180万円(R6)	70a(R5) →70a(R6)

- 農作業に関連する資格取得を希望する者には会社で支援し、刈払機取扱作業従事者講習6名受講、大型特殊免許3名取得。
- 加工や農業以外の仕事を作ることで、多くのやりがい・モチベーションの創出。内原ファームの障害者が、仕事をする中で自信を取り戻し、障害者手帳返納。
- 障害のある家族をもつグループ従業員から就業希望の相談を受けるなど、従業員の家族からも頼られる事業へ発展。

様々な関係者と連携して農林水産業の多様な仕事を農福連携等で請け負い、年間を通して作業を確保。生きづらさや働きづらさを抱えた障害者や引きこもり、生活困窮者等の地域における居場所作りに貢献。



基本情報

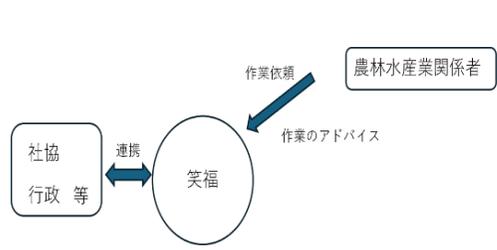
設立:R2年 / 農福連携取組開始:R2年
取得認証等:認定農業者(R5年)

概要

主力商品
(農作物)いちご、米
(加工品)スマッジ、ヒノキオイル、ヒノキ石鹸

特徴的な取組
林福連携(ヒノキを使った加工品)、水福連携

体制図



住所:三重県北牟婁郡紀北町馬瀬390-2
TEL:0597-31-0294
Mail:umaze.fuku@gmail.com

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

きっかけ

R2年

支援を望む農家など地域の声に対し、就労により収入を得て自立したい障害者や生活困窮者の声があったことから、双方の課題解決を図ることを目指して活動を開始。

取組

人を耕す

- 地域の農業・林業・水産業の多様な仕事を請け負うことで、個人の特性に応じた仕事を年間を通して振り分けることが可能。
- 個人の作業習熟度に合わせて、ハウス管理を一任したり、しめ縄づくりの担当者として、新規入所者の指導を任せたりと、責任をもって仕事ができる環境を整備。

地域を耕す

- 日本農業遺産である尾鷲ヒノキ林業の維持のため、スマッジづくりやヒノキオイル、ヒノキ石鹸づくりを通じて新たな需要の開拓に向けた取組を実施。
- 県内のカキ養殖のロープ補修など、地域内外の関係者と連携して取り組み、水産業の維持に貢献。
- 地元の小学校と連携して、田植えや収穫、カカシ作り体験を実施し地域との関係性を構築。

未来を耕す

- 地域の農林水産業の維持を図るため、生活困窮者や引きこもりの方など多様な人が様々な作業に携わり、双方の課題の解決を図りながら地域産業の維持に貢献。
- ヒノキの葉のスマッジ・オイル・石鹸への加工など、室内での作業が必須の障害者等にとっても取り組みやすい作業を確保。

平均給与月額	障害者数	農地面積	—
10,000円(R2) →25,000円(R6)	3人(R2) →7人(R6)	0.6ha(R2) →6.0ha(R6)	—

成果

- 同じ作業を皆で行うため、自然と良好な関係性が構築され、相互理解が促されている。
- 取組開始当時は半日勤務で1万円ほどの月給だったが、R6年は2万5千円に増加。
- ひきこもりである者には、個人の特性に合わせて、しめ縄づくりやヒノキ加工等の内職に取り組んでもらうことにより、ひきこもりからの脱却につなげている。
- 荒廃農地の活用は60aから600aまで拡大し、農地の維持と地域農業の維持に貢献。

障害者や生きづらさを抱える者等に対し、滞在型の自然農法による農作業を提供。地域との交流を図りながら多様な人が働く環境を創出し、定住や新規就農へと繋げる取組を実施。



基本情報
 設立:S48年 / 農福連携取組開始:R4年
 取得認証等:認定農業者(H20年)
 高収益作物時期作支援交付金事業(R2) 等
 主な選定表彰:ダルメインWorldマーマレード&フェスティバル(2019~2022)金賞
 料理王国100選2023入賞(果実酒(甘夏))

概要
主力商品
 (農作物)米、野菜、果樹(柑橘類)、ハーブ類
 (加工品)マーマレード、ジュース
特徴的な取組
 自然農法、農薬不使用、環境保全型農業

体制図
 福岡正信自然農園: 柑橘を中心に、米・麦 等を生産
 「空と大地 B 型事業所」:3年前から農繁期や福祉の適正にあった仕事があるときに作業を委託
 知人の法人に所属する重度の身体・知的障害者:5年前から法人のスタッフと共にサポートしながら農作業に当たってもらっている。
 自然農法を学びたい人の受け入れ:年間20名程度(半分は海外から)が自然農法を勉強しに農園に滞在。農業を勉強したいだけでなく、生きづらさを抱える人や人生に悩む人が数多く滞在。

TEL:0744-34-7271
 Mail:fmasanobu@nihon-sogo-engel.com
 URL:https://f-masanobu.jp/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

きっかけ

R4年

従業員の家族である重度障害者の方に20年以上前から農作業を手伝ってもらってきたことから、障害者と農作業の親和性を感じ、福祉施設との連携を開始。

人を耕す

人を耕す

- 就労継続支援B型事業所への委託は、取組当初から1名あたり時給500円に設定。
- 得意なことや個々の性格、やりたい仕事に応じて作業を切り分け実施。
- 障害者や生きづらさを抱える者、また自然農法を学びたい者に対し、年間20名程度(半数が海外から)に住環境と食事を提供し、多様な人と農作業に携わり、自然への関わり方を覚える機会を提供。

取組

地域を耕す

- 自然農法の根幹となる「粘土団子づくり」のワークショップを地域の小学校で毎年実施し、地域との交流を図っている。
- 山椒の植え付けなど手間のかかる農作物の作付を拡大し、連携先の就労継続支援B型事業所の業務量増加に寄与。

未来を耕す

未来を耕す

- 自然農法で障害者など多様な人が働く場所を創出し、定住や新規就農につなげるなど、地域農業の維持・発展に貢献。
- 規格外品や豊作年の余剰作物をマーマレードやジュース等に加工。マーマレードは国際的なアワードで金賞を受賞。

障害者数	農地面積		
1人(R4) →7人(R6)	10ha(R4) →10.4ha(R6)	—	—

成果

- 多様な人が自然の中でそれぞれ得意とする力を発揮し、互いの違いを認め合う地域コミュニティが育つ環境を創出。
- ニューヨークの雑誌「Atmos」でも農園が紹介された他、NHK のドキュメンタリー番組が2年半~3年にわたり密着取材し、BS で放送。
- 滞在型による農作業の機会を提供することで、その後5名程度が新規就農を実現。
- 農福連携の取組を開始して3年で50a程度農地を拡大。

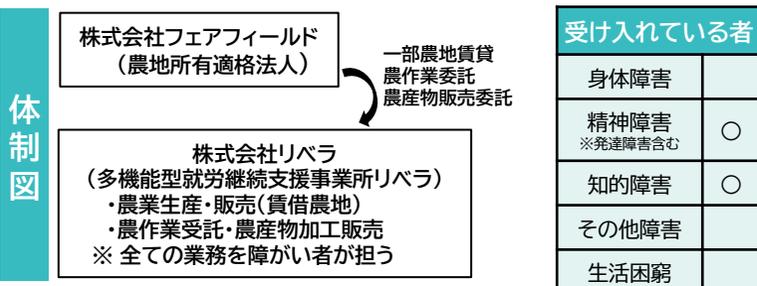
自然栽培農法による果樹や伝統野菜等の生産・加工・販売までを一貫して行い、すべての事業で障害者等が活躍。レストランを併設したワイナリーを開設し、年間10,000本のワイン・シードルを製造。



基本情報

設立: R2年 / 農福連携取組開始: R2年
 取得認証等: 農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R3、4年) 認定農業者(R8年)

概要
主力商品
 (農作物)りんご、ハスカップ、黒とうもろこし、ハーブ
 (加工品)ワイン、シードル
特徴的な取組
 自然栽培、環境再生型農業、スマート農業、農学校運営 等



住所: 札幌市中央区北2条西9丁目4 インファス2階
 TEL: 011-213-1525
 Mail: yutoriolibera@gmail.com
 URL: <https://shurosihen-b-libera.com/>

きっかけ

R2年

様々な困難を抱えた人々が自立に向けてのびのびと働くことができる職場づくりを目指し、障害者就労施設を運営する株式会社リベラを設立。

人を耕す

- 12.5haのほ場で多様な農業生産・加工・販売を通じて売上を拡大。
- 果樹・伝統野菜・希少なイタリア野菜等の生産・加工・販売まで自社で行っており、すべての事業において障害者等が従事。
- 適切な作業選択や研修などを通じた技術向上と働きやすい環境づくりに努めており、障害者の意欲と技術の向上により3年間で2名が一般就労に移行。

地域を耕す

- 荒廃農地化しそうな畑や果樹園の作業を受託し、自然栽培農法による適切な管理を行い、生産性を回復させ、地域農業の維持に貢献。
- 在来種である黒トウモロコシの生産・販売を通じて、北海道の伝統野菜の維持に貢献。
- ワイナリーに併設したレストランで、自社産野菜を使用した料理やワインを提供し、6次産業化のモデルとして取組の普及と、交流人口の増加に寄与。

未来を耕す

- 無肥料・無農薬の自然栽培農法で野菜等を栽培。
- 令和6年に「LIBERA WINE TERRACE」を開設し、ワインとシードルの醸造を開始。
- ワインの購入代金の50%を障害者の工賃と環境整備に使用することを明示することで、障害者雇用や自然環境の改善など、地域や社会に貢献する仕組みづくりへ消費者の行動変容を促進。社会課題を解決することで事業が拡大していく構造をつくり取り組む。

成果

平均工賃時給	障害者数	売上高	農地面積
400円/時(R2) →436円/時(R6)	8人(R2) →21人(R6)	183万円(R2) →889万円(R6)	12.5ha(R2) →12.5ha(R6)

- 障害者等の工賃向上に努め、北海道の平均工賃を大幅に上回る450円/時間を実現。
- 自然栽培農法を学ぶ参加者が地元仁木町や隣町の余市町などに宿泊・滞在することで地域経済と都市農村交流、関係人口の増加に貢献。
- 施設利用者のうち、R6の農業従事者数は15人となっており、R2から年々増加。
- 農福連携を通じた生産性の向上により、R6はワイン9,000本、シードル1,000本を生産。

福祉と地域が連携し、希少な津軽漆の苗木生産から加工・販売まで一貫して行う取組により、障害者の就労、工賃向上、一般就労の機会創出とともに、持続可能な地域づくりと伝統文化の継承に寄与。



基本情報
 設立:H25年 / 農福連携取組開始:R3年
 取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携型)(R4~5年)

概要
主力商品
 (農産物)漆苗
 (加工品)漆茶
特徴的な取組
 林福連携、ユニバーサル農園

体制図

- 生産指導:青森県地域中農県民局、株式会社小西美術工藝社、株式会社大昭造園、株式会社ミズミズ
- 植林:株式会社津軽バイオマスエナジー、津軽バイオチップ株式会社、株式会社タケエイ
- 漆茶生産:市民団体あじやらで遊ぶ、地方独立行政法人青森県産業技術センター弘前工業研究所
- アップサイクル事業:青森県経済産業部地域支援課経済力向上グループ、青森県新産業創造課、今漆器工房、建具工芸齋藤、K2
- 弘前大学人文社会科学部社会経営課程、弘前大学教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター、青森県立弘前工業高等学校建築科、青森県立五所川原農林高等学校森林科学科、青森県立柏木農業高等学校環境工学科
- 地域連携:市民団体津軽漆連、市民団体ReNeW津軽、CAS AICO、弘前鉄道株式会社、新ねぶた集団わらばんど、一般社団法人たかほろコミュニティベースト生活介護事業所はれはれ、社会福祉法人高城同志会幼保連携型認定こども園高城こども園

住所:青森県平川市中佐度南田18-20
 TEL:0172-88-7656
 Mail:kirin@kjb.biglobe.ne.jp
 URL:https://kirinnosato.official.ec/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きっかけ

R3年

荒廃農地や放置山林の増加により、国産漆の自給率低下と伝統工芸「津軽塗」の危機が深刻化する中で、農福連携を開始し、持続可能な地域づくりと伝統文化の継承に取り組む。

人を耕す

人

- 利用者別の評価シートを半年ごとに見直し、工賃向上につなげている。
- 苗育成、植林、営業、講師、接客、ものづくり班を設け、適性に合った作業を選定。日替わりリーダーに外部対応や指導を任せ、責任感と自信を育成。リーダーの働きは、工賃に還元。
- 外部講師を招いての作業マニュアルの作成、治具を用いた作業難易度の調整、通所困難な難病者にも在室で作業参加できる仕組みの構築など安全で働きやすい職場環境を整備。

取組

地域を耕す

- 年間1,000本の漆苗を安定生産し、販路を確保。副産物を活かしたアップサイクル製品で高収益を実現し、津軽塗産業との協働で観光客や漆文化の関心のある層に訴求。
- 荒廃農地や伐採後の山林を林業会社や学生とともに整備し、漆林へと再生。短期間で収益化が可能な漆を用いた山づくりを提案し、農林資源の活用と地域課題の解決に貢献。

未来を耕す

未来

- 苗木生産から加工・販売までを一貫して行い、津軽塗とのコラボや外部講師の協力によって高付加価値な製品を創出。精神障害者にも良好な効果があり、定着率も向上。
- 取組内容はSNSやメディア、CMで積極的に発信し、全国から視察者が訪問。作業マニュアルや治具などの工夫は他団体にも応用可能。

平均工賃月額	作業に関わる障害者数	荒廃農林地の解消	農地(栽培)面積
11,286円(R3) →20,825円(R6)	3人(R3) →20人(R6)	0ha(R3) →1.5ha(R6)	1㎡(R3) →10㎡(R6) ※ポットトレイで漆苗を栽培

成果

- 植林作業での評価が自信につながり、就労移行支援や一般就労への移行を実現。ものづくり作業をきっかけにイラストレーターとして開業した者や、職業訓練校に進学した者も輩出。
- 桜まつりや社協まつり、地域フェスタ、津軽塗フェアなどのイベントへの出店や展示会、講師活動などを通じて地域との交流を深め、コミュニティの維持・活性化に貢献。
- 企業、学校、行政へと連携を広げ、多世代・多分野での協同を推進。漆を通じた出会いから市民団体設立に至るなど、地域活性化の新しいモデルを構築。

高齢者施設において、機能訓練を兼ねた夏野菜栽培や天日干し米づくり、稲わら飾りの制作・販売を通じて、高齢者が最期まで生きがいを持って働ける場を実現。

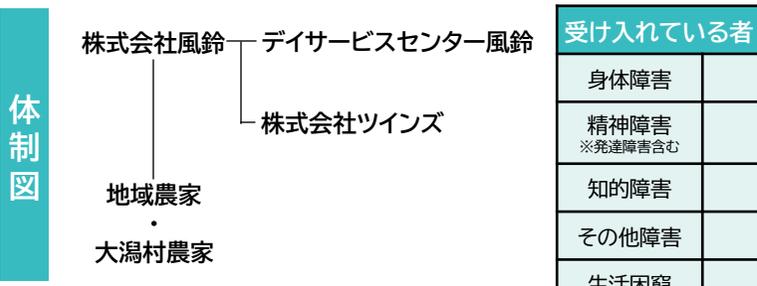
高齢者施設



基本情報

設立:H20年 / 農福連携取組開始:H25年
 主な選定表彰:秋田県東成瀬村品評会(H29、H30)玄米の部第1位、ディスカバー農山漁村の宝(第12回/東北)

概要
主力商品
 (農作物)米、トマト、リンドウ、山菜、夏野菜
特徴的な取組
 稲わら飾り(リース)製造、環境保全型農業、特別栽培農産物



住所:秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字長瀬51番
 TEL:0182-47-3522
 Mail:fengling51@navy.plala.or.jp
 URL:http://higashinaruse.jp/

きっかけ

H25年

高齢者が「生き生きと暮らす」ためには、役割と働く場が不可欠であると実感。高齢者の多くが農業経験者であり、その力を活かすことができると考え、農作業を実施。

人を耕す

人

- それぞれの能力に応じて、無理なく作業できるように道具を工夫したり、高さを調整したり、職員がサポートしたりすることによって、利用者が可能な作業を実施。
- 圃場に行く前に体温・血圧測定を徹底し、水分補給と作業時間の調整を行う安全管理体制を構築。
- 『同じ釜の飯を』を合い言葉に、農作業を通じて共に生きる喜びを実感できる場づくりを実施。

取組

地域を耕す

- 荒廃農地30aを再生し、雑草に覆われていた棚田を維持管理。
- 地域農家のトマトやリンドウ栽培への参加により、農家側の労力が軽減するとともに、高齢者側の役割を創出。
- 大潟村農家との連携で稲わら飾り(リース)を製造。天日干しし収穫した天日干し米「冥土の土産」はふるさと納税返礼品に登録。

未来を耕す

- 令和6年から隣接の美郷町の高齢者施設でも取組を導入。
- 自然農法・天日干しの希少性を活かし、付加価値を向上。
- 手植え・手刈り・手干しといった昔ながらの技術の継承が進み、地域に伝統を残す人材育成の場にも寄与。

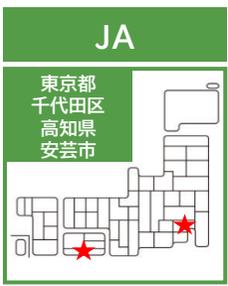
平均介護度	夏野菜・山菜の販売額	米の販売額	稲わらリースの販売額
2.1(R2) →2.0(R6) <small>※利用者のうち要介護認定者の介護度を平均した値</small>	5万円(R2) →10万円(R6)	0円(R2) →7万円(R6)	0円(R2) →9.6万円(R6)

成果

- 介護が必要になり、家に引きこもっていた80代女性が、当初断固拒否していたこの農を通じたデイサービスを受け入れ、『ここに来ることが唯一の楽しみだ』と1年後に発言。
- 介護職員と高齢者が目標を一つにすることで、他の施設ではあり得ないような会話が生まれており、施設内では一歩も歩かない高齢者が、農作業だと1人で歩こうとする等、利用者の生きがいづくり等に寄与。



大規模施設園芸における労働力確保のため、障害者就労施設と連携。周年栽培と作業のマニュアル化で誰でも働ける環境を構築し、安定労働と就業機会を拡大。



基本情報

設立:S47年 / 農福連携取組開始:R3年

取得認証等:ノウフクJAS(R7年)

概要

主力商品 (農作物)ナス

特徴的な取組 スマート農業 環境保全型農業

体制図



ゆめファーム全農こうちで収穫した青果物の集荷、袋詰め、出荷等の農作業をこうち絆ファーム*へ常時委託 *就労継続支援B型事業所 ・その他の農作業も、発生の都度委託

住所:東京都千代田区大手町一丁目3番1号 JAビル TEL:03-6271-8269 Mail:zz.zk.zennoh.horticulture@zennoh.or.jp URL:https://www.zennoh.or.jp/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きっかけ

R3年

JA全農が開発した大規模多収型施設園芸技術により、収量が2~4倍・栽培(出荷)期間が周年となったため、労働力の確保が課題となり、障害者就労施設への作業委託を開始

取組

人を耕す

- 作業委託料(単価)は障害者就労施設と協議し決定。作業技術向上に伴い、作業委託料も上昇する仕組みとするため1袋当たりで単価を設定。
- 作業のマニュアル化(書類・映像)等により適性を勘案した委託や作業中の適切な管理が可能。
- 単発の軽作業から圃場内作業や袋詰め、出荷と委託作業内容をステップアップし、障害者の能力向上に寄与。

地域を耕す

- 「ゆめファーム全農構想」を掲げ、雇用型農業とし、作業を分解・マニュアル化することで障害者に限らず多くの方が簡易に作業従事することが可能な大規模多収型施設園芸を推進。
- ゆめファーム全農こうちは全国的に視察を受け入れて、取組の紹介を行うことで、農福連携への理解を醸成。

未来を耕す

- ナスでは、簡便な作業で樹勢を維持しながら効率的かつ安定的な収穫が可能となる「ナスのつるおろし栽培法」を確立(特許第7623709号)したことで障害者就労施設への作業委託へ寄与。
- 環境調和型農業に資する技術・資材を体系化した「グリーンメニュー」にも取り組み、ノウフクJASを取得した商品に限らず、環境等に配慮した商品を展開。

成果

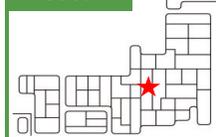
障害者就労施設への報酬支払額	農地面積	農業売上高	—
12万円(R3) →377万円(R6)	1ha(R3) →1ha(R6)	5,100万円(R3) →6,500万円(R6)	—

- 障害者就労施設への年間支払総額 技術向上・委託作業の増加に伴い金額も上昇。
- 常時発生する集荷や袋詰め、JAへの出荷といった作業を全量福祉事業所へ委託することで圃場運営も効率化し生産に注力できることから収益性や生産性も向上。
- 各種センサーや環境制御機器によるスマート農業化もすすめ農福連携に限らず働きやすい環境を創出。

施設外就労として、養蚕の全工程及びいちごハウス内業務を委託。有効資源の活用と伝統産業の復興による地域活性化を図るとともに、雇用の創出や給与・工賃の向上に繋げる取組を実施。

農林水産業経営体

岐阜県
下呂市



基本情報

設立:H7年 / 農福連携取組開始:R元年

きっかけ

R元年

数多くの作業工程があり人手が必要である養蚕事業とハウスでのいちご栽培において、施設外就労の受け入れを開始。

人を耕す

- 飼育期間や栽培時期が決まっており、利用者は安定した収入を得ることが可能に。
- 数多くの工程があり障害の度合い・就労能力によって作業内容を分担。
- 全工程に関わることで仕事の成果を目の当たりにでき、強い達成感を得ることが可能。
- 責任感をもって取り組めた実績が個人の自信に繋がり、作業にもプラスの影響を与えている。

地域を耕す

- 荒廃農地を開墾して桑園へと生まれ変わらせることで、自社で餌の飼育を可能にし、農地面積を増加させるなど、農地の継承と地域農業の維持に貢献。
- 養蚕経験のある高齢者の雇用を通じて、生きがいづくりにも寄与。
- 市内唯一のいちご狩りができる場所として地域の子ども会をいちご狩りに招待するなど、地域交流の場としても貢献。キッチンカーでのいちごを使ったスムージー販売も実施。

取組

未来を耕す

- 桑園では、利用者が選別した廃棄物を堆肥化し栽培に活用しており、資源のリサイクルを行いながら、伝統産業の復興に生かすとともに、雇用の創出を実現。
- 見学や体験を通じて、施設外就労先や雇用先の開拓に繋げ、利用者の将来への可能性拡大を図る。

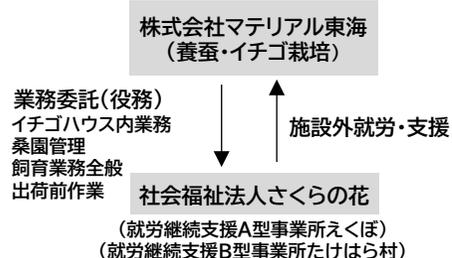
概要

主力商品

(農作物)いちご
(畜産物)養蚕・繭として出荷

特徴的な取組
環境保全型農業

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

成果

平均賃金月額	平均工賃月額	障害者数	農地面積
122,000円(R2) →130,000円(R6) ※ 農業以外も含む	60,000円(R2) →62,000円 (R6) ※ 農業以外も含む	15人(R2) →20人(R6)	1.7ha(R2) →2.2ha(R6)

- 県内で衰退していく養蚕において、R7春には約12万頭を飼育し、初年度から18倍に増加。県内トップの集荷量を達成。
- 作業中に利用者間で教え合い、助け合うといったコミュニケーション能力の更なる向上を確認。
- 施設で作業をする利用者の姿勢が認められ、他企業から施設外就労の依頼が増加。施設外就労先の開拓に寄与。

住所:岐阜県下呂市森1329番地3
TEL:0576-23-3207
Mail:h-material@m-tokai.co.jp
URL:https://www.m-tokai.co.jp/